

「(仮称)北九州芸術劇場」事業計画書概要

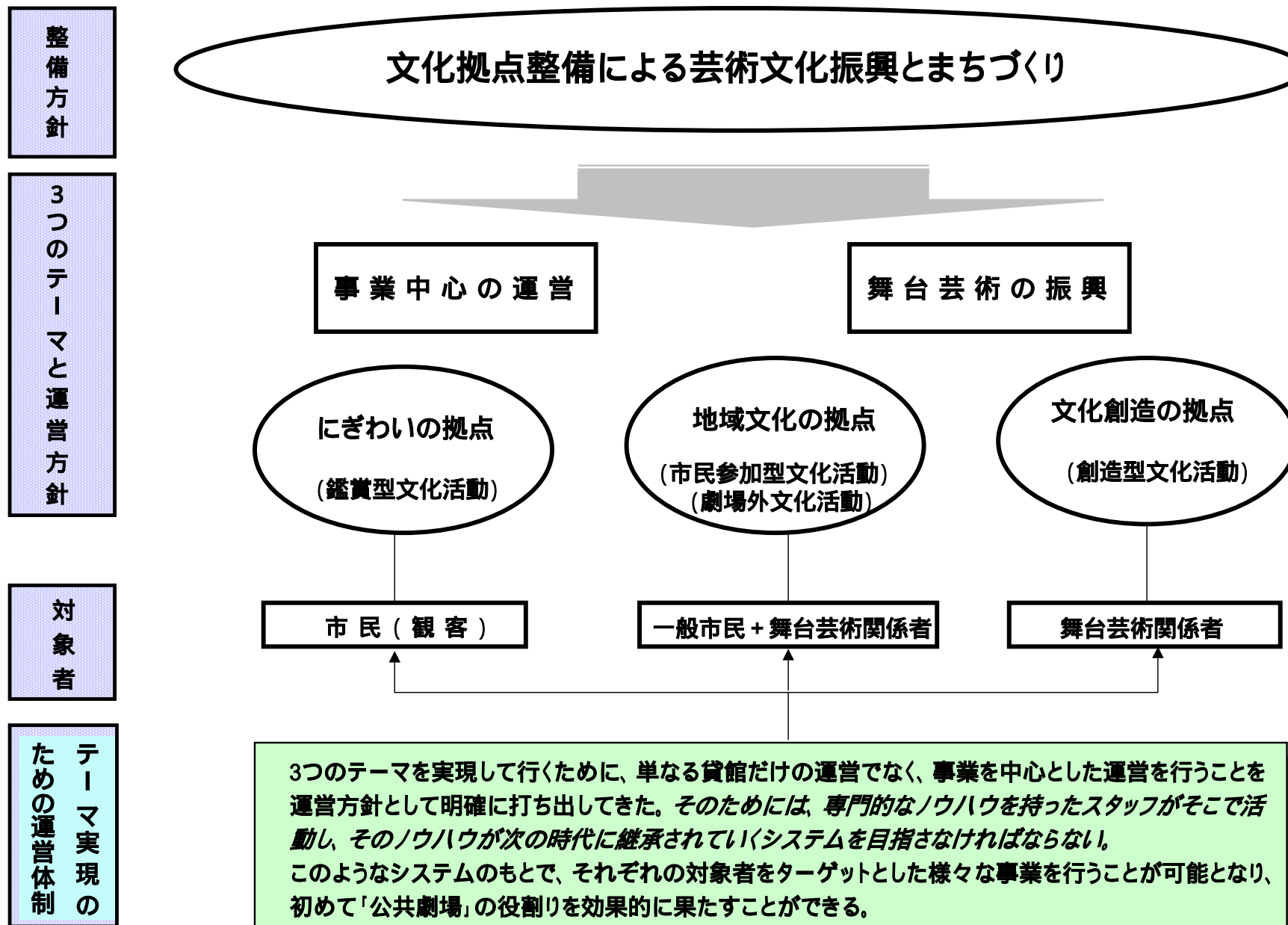
1. これまでの検討内容と事業計画への視点
2. 事業計画方針
3. 具体的な事業展開
 - (1) 地域の創造力を高めるための支援体制(貸し館での事業展開)
 - (2) 各種の自主事業への積極的な展開(長期ビジョンの展開内容)
4. 劇場の善循環
5. 事業展開イメージ

北九州市

平成12年11月

「(仮称)北九州芸術劇場」事業計画案

1. これまでの検討内容と事業計画への視点



2. 事業計画方針

事業計画の考え	目 標	<p style="text-align: center;">【劇場文化の創造】</p> <p>劇場を核とし、舞台芸術活動の「広がり」と「高み」を目指す事業を行うとともに、普遍性のある舞台芸術を劇場内だけにとどめず、演劇等をツールとした「劇場外活動」を通じてコミュニティづくりに役立てる等、幅広く市民に浸透させることにより、北九州独自の「劇場文化を創造」して行く</p>
	事 業 の 柱	<p style="text-align: center;">【北九州劇場文化活性化事業】</p> <p>(1) 観客・人材育成 観客育成・子ども若年層等の育成、 地域リーダーの育成(教育・福祉、コミュニティの視点) 舞台制作者の育成、 劇場スタッフの育成</p> <p>(2) 舞台芸術のセンター化 舞台芸術の創造(作品制作)や劇団運営等も含めて、舞台芸術の情報やノウハウ・人材が集積 舞台芸術関係者の相談対応、情報発信等 教育や福祉等における舞台芸術活用のセンター機能</p> <p>(3) 国内外の劇場等とのネットワーク形成・文化交流 国内外の自治体や劇場・劇団、文化団体等のネットワーク形成・文化交流による相互理解</p>
	開 具 的 方 向 性 的 な 事 業 展 開	<p>(1) 地域の創造力を高めるための支援体制 3 - (1) 貸し館事業</p> <p>(2) 各種事業の積極的な展開 3 - (2) 公演事業 劇場外活動 創造活動</p>
	効 果 期 待 さ れ る	<p>(1) 舞台芸術振興の促進(対象者の間口拡大、将来の観客開拓、アーティストの活躍の場)</p> <p>(2) 文化的イメージ浸透による北九州市のイメージアップ ファッションや建築、生活等まで含めた全体の芸術文化化へ</p> <p>(3) 雇用機会・販わいの創出等経済波及効果</p> <p>(4) 人材交流による質的アップ</p>

3. 具体的な事業展開

(1) 地域の創造力を高めるための支援体制

従来ホールの貸し館

場所貸し、管理
管理、禁止
技術打合せのみ
事故がないかどうかの管理のみ
「ホールを借りる」用事がなければ誰も訪れない
ホール側からは積極的には広報しない
アマチュアに積極的に働きかけるかどうかは、職員の気質による

貸し館の姿勢
利用者への対応
利用者との打合せ
貸し館の本番中
日常的な活動
広報支援
劇場職員の位置付け

本施設における貸し館

アーティスト、劇団発掘 及び育成の場
基本ルールを守った上で柔軟な対応
技術と制作の双方を交えて、提案、アドバイス
制作の担当者が公演を見てアドバイス
舞台芸術に関わることについて相談
情報提供や劇場案内等で広報支援
業務として上記のような活動を実施

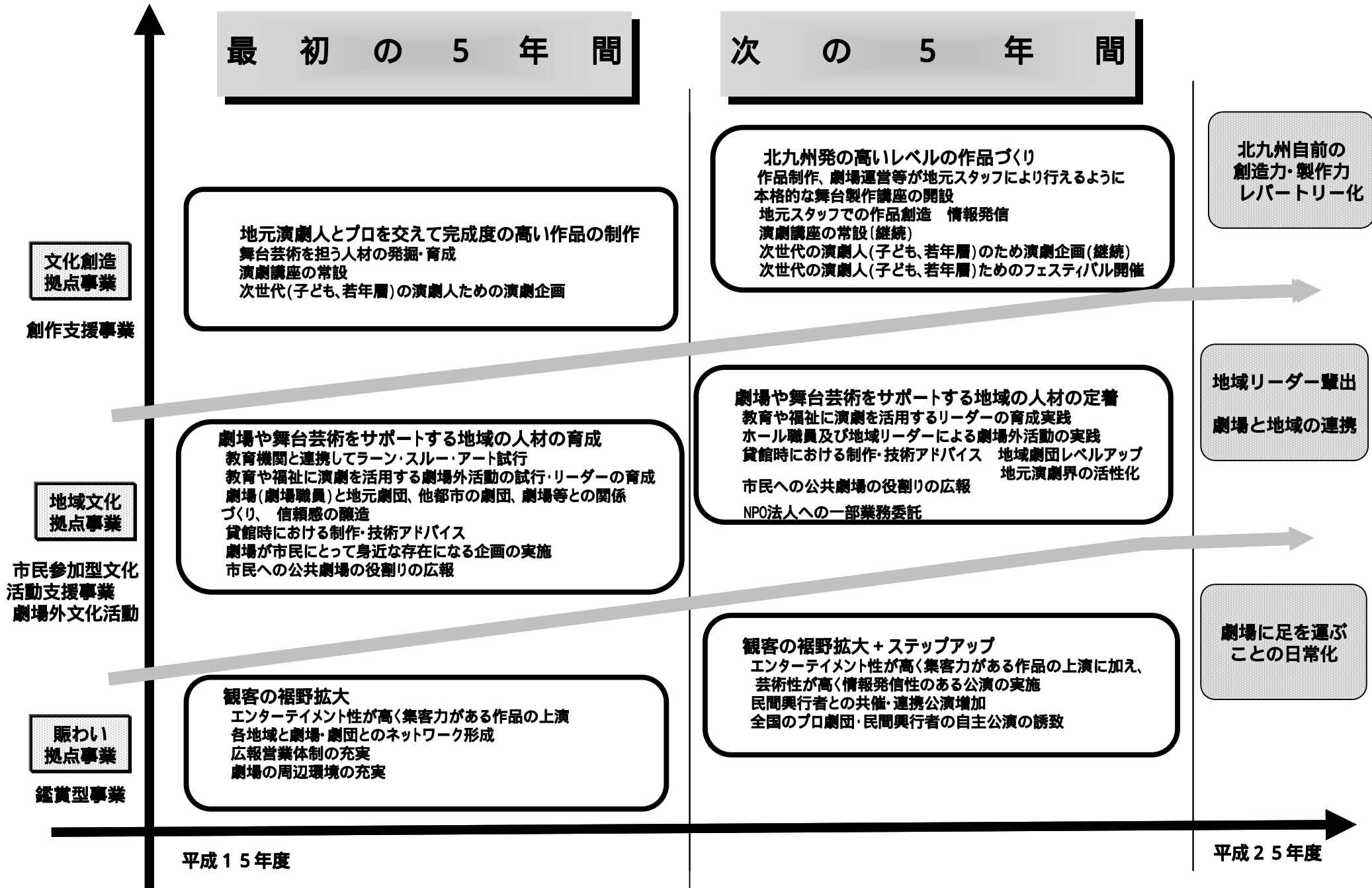
必要な技術者総数はほとんど変わらない・・・(劇場の志向性の問題)

- × 地域でアーティストや劇団が育つことは難しい
- × 地域の利用者にお役所仕事と言われる可能性

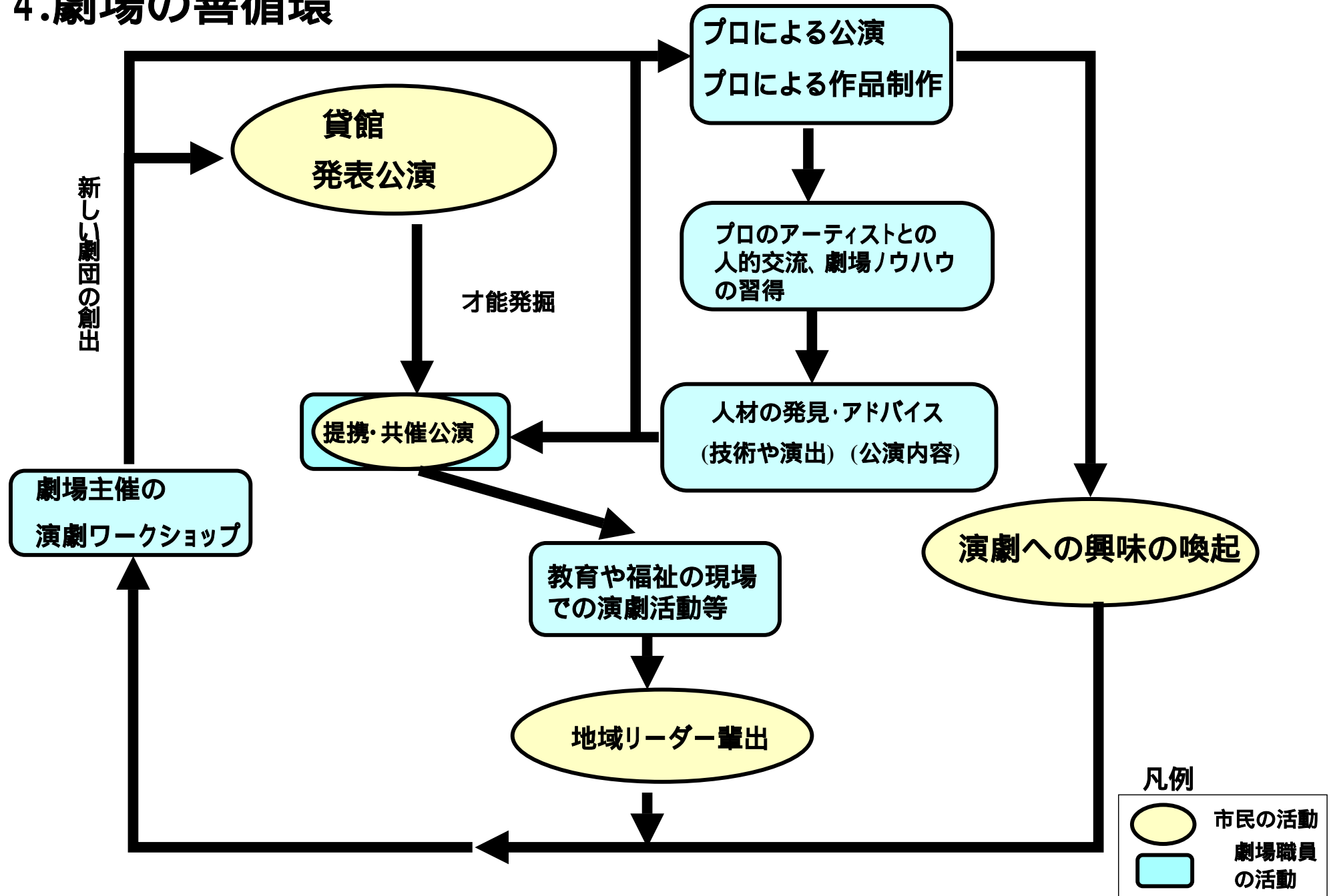
北九州市を基盤に活動するプロ劇団が育つ
地域の利用者「親切」「使いやすい劇場」として喜ばれる
ホール利用の促進

(2) 各種の自主事業への積極的な展開

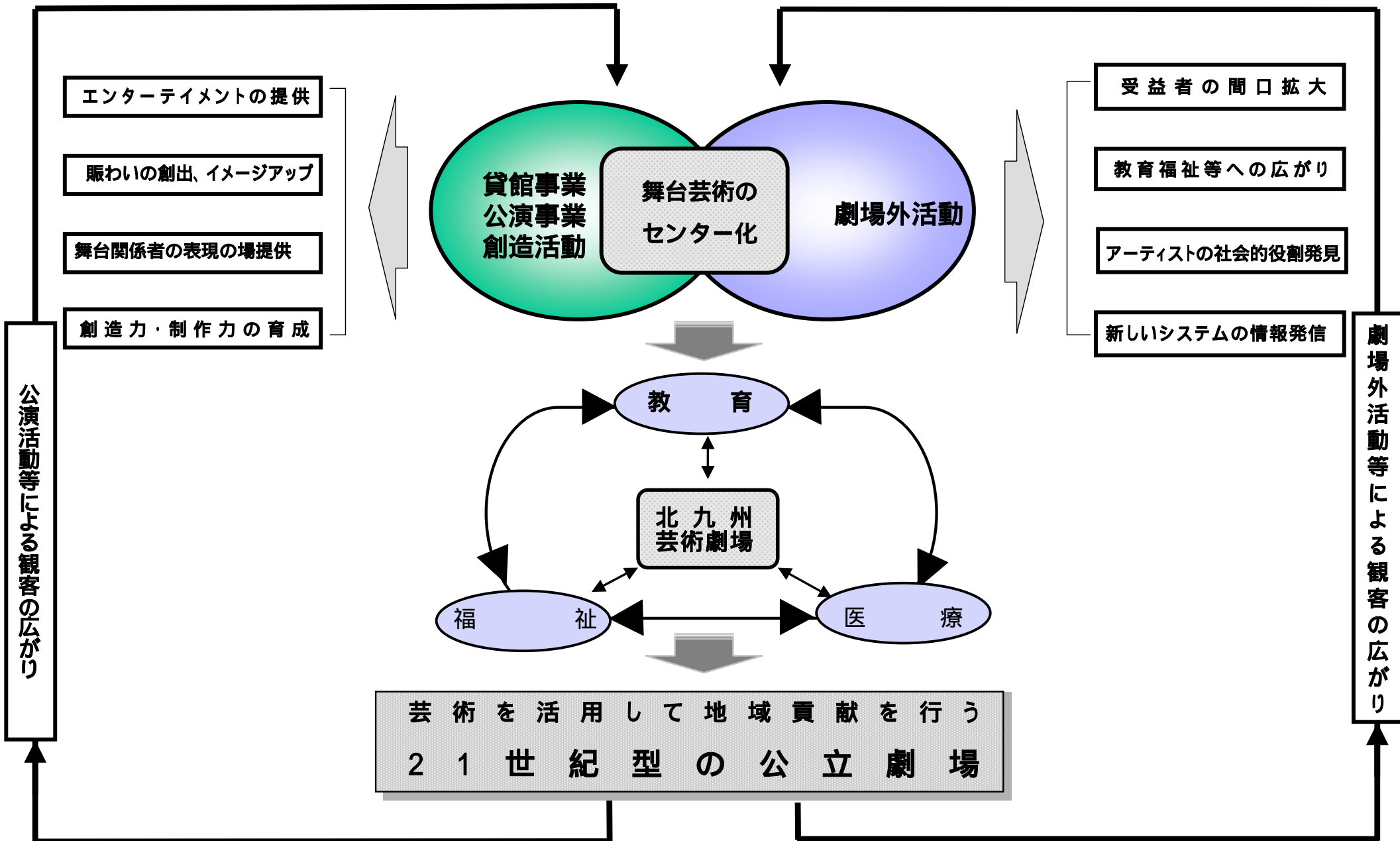
長期ビジョンの展開内容



4.劇場の善循環



北九州芸術劇場が目指すもの



演劇の持つ力

1 人間関係をつくる場面が多い

(1) 「演劇は関係のアート」

= 「演劇には人と人を繋ぐ力がある」

役者が演じることは疑似的に人間関係をみせることである

終演後には芝居の感想を語り合うことで観客同士の関係も生まれる

2 役割が明確になる

(1) 演劇を創る過程で責任と役割が明確な形で参加できる

演劇を創る過程で、個々の能力や得意分野・趣味興味に合った仕事をやってもらうことが可能

事例

大工仕事 衣装係 デザイン係 小道具係
宣伝係 ロビー飾りつけ係 髪結い係 受付
メイク係 場内アナウンス 会場整理係
楽屋係等

(1)教育や福祉の現場でコミュニケーション力の向上に役立てる

(2) 「孤独感」に対する積極的なアプローチに演劇を活用

(高齡化社会で、「人間関係」と「役割」が喪失し「孤独感」が生じやすい)

アウトリーチ：施設外活動の事例(北九州市の場合)

教育分野への演劇手法の活用



2人一組になって花と花瓶を表現している一コマ(表現力とコミュニケーション能力の向上)

芸術劇場プレ事業で平成12年9月から 行っている小学校教諭、劇団員等を対象とした演劇トレーナーズ養成講座(3カ年継続の講座)

鴻上尚史による演劇ワークショップ



発生練習の一コマ(コミュニケーション基本)

芸術劇場プレ事業で平成12年9月に行った元第三舞台の鴻上尚史によるワークショップ。地元劇団員、福岡市、鹿児島市、都城市からも受講に来た。

アウトリーチ：施設外活動の事例

生涯学習への対応



演劇リハビリテーションでの大道具製作の一場面

舞台を作り上げる過程でお年寄りに人とのつながりを取り戻してもらう試み

障害者のコミュニティ参加



知的障害者を対象とした演劇リハビリワークショップの一場面

演劇にはそれぞれに役割りが持つ場面がたくさんあるので、飽きずに最後まで参加する。

北九州芸術劇場が目指すもの

